



委員会・審議会

岡崎市景観審議会／岡崎市総合計画審議会／岡崎市観光基本計画推進委員会／岡崎市市民協働推進委員会／旧額田郡公会堂及物産陳列所保存活用計画策定検討委員会／NPOと行政の協働に関する実務者会議(愛知県)

●専門家派遣

岡崎市近郊での講義や岡崎市内の先進事例の紹介、各種委員会や審議会への助言ならびに政策提言を行い、地域課題に対する複合的解決策の提示をしました。

講師・コーディネーターなど

JSURPまちづくりカレッジ(日本都市計画家協会)／「三河ものづくり学」講義(愛知産業大学)／都市の木質化連絡会議(愛知県)／NPO法人 おかざき農遊会 全体会(NPO法人おかざき農遊会)／岡崎市民公益活動事業費補助金報告会(岡崎市市民協働推進課)／ミズベスクール(国土交通省近畿地方整備局)／Mizu中部(国土交通省中部地方整備局)／愛地球博記念公園マネジメント会議(愛知県)／かがやけ あいちサステナ研究所(愛知県)／岡崎市地域包括ケア推進研修Ⅱ(岡崎市長寿課)／まちづくり人賀詞交歓会(蒲郡市)など

事務局他

●まち育てインターンの受入

自治体から派遣された研修生15名を対象にインターンプログラムを開催。各センターの事業運営等を通じて、受講者のまちづくりリテラシーを高めることを目的とした研修を実施しました。また「りた」にとっては、インターンの受け入れにより各事業に第3者の視点加わり、内部職員だけでは気づけなかった事業の良い点や改善点が見つかり、既存事業の底上げに繋がる機会となりました。



●りたスタッフ研修

今年度新たに入社したスタッフに対し、岡崎市内のNPO/市民活動の潮流とりたの位置づけを学び、りたが掲げる事業方針に基づいた支援業務の概要に触れつつ、中間支援組織の一員としての業務に従事できるよう教育を実施。加えて、近隣他地域の市民活動センターの視察を行い、市民協働まちづくりの事例を学びました。



●りた機関紙「Litaracy」のリニューアル

毎月奇数月に発行しているLitaracy(当誌)は6回目のリニューアルを実施しました。各分野で動く事業内容と成果の報告を「見える化」することにより、「りた」の動きを包括的に把握できる紙面構成としています。

※バックナンバーはりたHP(http://www.okazaki-lita.com/litaracy_post-category/litaracy)をご覧ください → → →



まちのミカタ

Litaracy

2018.07vol.93

発行・編集



岡崎まち育てセンター・りた

〒444-0072 愛知県岡崎市六供町字杉本78-1
TEL(0564)23-2888／FAX(0564)23-2898

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra／岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所／岡崎市各市民センター／シビックセンター／
FMおかざき／杉くんの駄菓子屋／angelshare／

まちのミカタ

Litaracy

ーりたらしいー

93

2018年7月



特集

2017年度のりた

2017年度の「りた」は3つのミッション(地域資源、福祉、防災)を掲げ、事業を推進しました。前年度(2016年)は「岡崎まちものがたり」「岡崎百景」「新世紀岡崎チャレンジ100」など岡崎市制100周年に関連する事業(⇒Litaracy87号参照)を通じて“まち”と“人”がかかわる機会を多く創出した年でした。2017年度はその流れを受け、それらの繋がりの継続や発展させることを試みました。

市内に設置されたまち育ての拠点施設(地域交流セン

ター)では、「岡崎まちものがたり」で発掘された地域資源をもとにまち歩き事業を企画したり、若い世代に向けた防災講座を企画したりするなどミッションに基づき、さまざまな事業を展開しました。一方、中心市街地の活性化を目指す「おとがわプロジェクト」では、その一環として社会実験(⇒Litaracy90号参照)などを実施。市民や事業者の参画によるプログラムが多数企画され、“未来の日常”をイメージしてまちに新たな風景を作り出しました。各事業の詳細は本文をご覧ください。

●数字で見る「りた」2017

決算額(経常費用)

2億2562万円

昨年度は、岡崎市制施行100周年記念事業およびまち育て関連の事業受託に伴い事業規模が拡大しましたが、今年度は前年度並みの事業規模となりました。

従業員数

62人

(常勤職員20人・パート42人)
このほかにアルバイト、プロジェクトスタッフの方もいます。

社会実験「MeguruQuruwa」 参加人数/総プログラム実施件数

3,000人以上/36件

岡崎市のまちなかにある公園や川、道路などの公共空間で、新しいまちの過ごし方を検証する社会実験「MeguruQuruwa」を実施。当日はあいにくの雨で、規模縮小や延期となったプログラムもありましたが、3000人以上の方にご参加いただきました。

ボランティア役務提供額(871円/h換算)

434万円

「りた」の事業に関わっていただいたボランティアの延べ活動時間数を賃金換算して可視化しました。2017年度も非常に多くのボランティアさんに支えられました。(延べ2,483名4,986.5時間)

交流センター年間利用者数合計

約44万人

1年間に地域交流センターをご利用いただいた人数を5館分合計すると、岡崎市の人口を上回る数になります。

岡崎まちものがたり ポータルサイト制作・ 運用業務

29記事

『岡崎まちものがたり』の作成過程で集積された情報を厳選。改めて取材・編集を行い、岡崎市シティプロモーションホームページ「岡崎ルネサンス」の「〇にする」岡崎まちものがたりにて、29本の記事を公開しました。

ボランティアマッチング人数/募集件数

3,459人/103件

「まちびとバンクで」1年間に地域交流センターと市民活動センターで受け付けたボランティア募集件数とマッチング数です。

●「りた」が掲げる“3つの主要ミッション”に対する成果

地域資源



- ①全てのまち育て拠点施設(地域交流センター、市民活動センター)において、地域資源を再発見、再認識する場として、まち歩きを企画運営し、まち育ての担い手の育成が進みました。
【該当事業】まち育てスクール
- ②あまり使われていない公共空間(河川敷、道路、公園等)を地域資源として位置づけ、市民が関わり、使いこなす仕掛けや仕組みづくりを図り、豊かな空間づくりと同時に担い手の育成が進みました。
【該当事業】おとがワ！ンダーランド、社会実験「MeguruQuruwa」、公園利活用ニーズ調査ほか

福祉



- ①施設を利用している市民活動団体の方々が地域に貢献(高齢者向けの講座の開催など)できる機会を提供したほか、地域交流センターの共用空間を活用したミニイベントに福祉系学生(岡崎女子大学、慈恵福祉保育専門学校等)を積極的に巻き込むことで、地域福祉の新しい担い手発掘が進みました。
【該当事業】よりなん「生きがいづくり促進事業」、やはぎかん「ふれあいひろば」ほか
- ②松本町や細川学区の地域包括ケア会議にコーディネーター(りた職員)を派遣することで、高齢者支援の取り組みを活性化することができました。
【該当事業】松本町包括ケア会議、北部地域包括ケア会議(細川分会)支援ほか

防災



地域交流センター(北部・南部・西部)にて、それぞれの地区特性に応じた防災講座を開催しました。なかでも女性や子育て世代にターゲットを絞った防災講座を開催することで、新しい地区防災の担い手の育成が進みました。

【該当事業】地域自主防災の枠組み構築支援事業、防災イベント、防災講座ほか



●おとがワ！ンダーランド 7/20(木)～1/31(水)

国が推進する河川を活用したまちづくり(通称「かわまちづくり」)を行う事業。今年度は7/20～1/31までの約6か月間を実施期間とし、24事業者・団体により41プログラムが乙川河川敷で行われたほか、殿橋の橋詰を使ったオープンカフェ「殿橋テラス」を設置。公募により選定された事業者により運営(9/25～11/26)されました。



●会議運営・フォーラムの開催 3/21(水) ほか

乙川リバーフロント地区内の豊富な公共空間を活用して公民連携事業(=QURUWAプロジェクト)を実施することで、まちの活性化と暮らしの質の向上・エリアの価値向上を図る戦略(=「QURUWA戦略」)の推進に向けて、専門家や関係部署等が意見交換、調整を行う会議運営のほか、QURUWA戦略を広く市民に伝えるフォーラム「動き出す、QURUWA」(3/21)を開催し、定員を超える130名の来場がありました。



●公園利活用ニーズ調査

「公園愛護運営会(公園愛護会の公園管理活動に活用促進活動を追加した新しい仕組み)」の設立支援を行う事業。モデル地区に選定された針先東町にある3公園(れんが公園、さくら公園、丘公園)を対象に公園を活用するための検討や実践を行ったほか、並行して樹林地を守り育む人材育成の講座(全6回)を実施しました。(⇒Litaracy88号参照)



●地域包括ケア 支援事業

「高齢者が安心して暮らせるまちづくり」を推進する、地域包括支援センター。そのセンター職員を対象としたファシリテーション研修や会議運営支援を行いました。



●地域自主防災の 枠組み構築支援事業

岩津支所と連携して、地域に有効な防災マップを住民同士で話し合い作成する機会を設け、防災意識向上ならびに自主防災の体制づくりを図りました。



●岡崎まちものがたりポータルサイト

2017年1月に発行された『岡崎まちものがたり』。その作成過程で発掘された地域資源の魅力をPRするため、岡崎市広報課のWEB媒体「“〇にする”岡崎まちものがたり」を制作しました。(⇒Litaracy92号参照)

■URL: <http://www.okazaki-rennaissance.org/story>

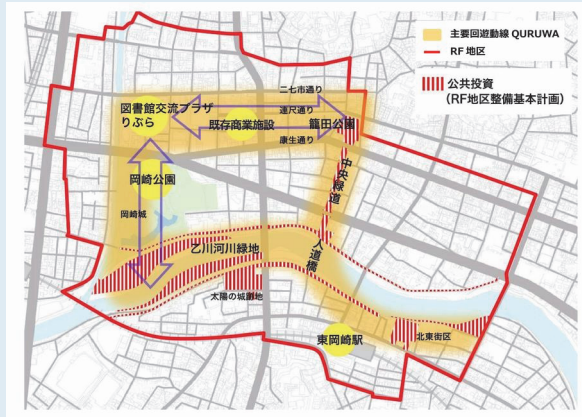
市民活動支援チーム／まち育て推進チーム

対話の場づくりを中心に、市民が主体的にまちの課題解決や魅力創出に関する仕組みづくりをしました。

2017年度の事業(抜粋)

●乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン

中心市街地では、人口減少や高齢化・店舗や事業所の減少といった空洞化が深刻化しています。そこで、岡崎城や城下町等に由来する歴史資源、まちなかを流れる乙川、地区面積の過半を占める公共空間などの既存ストックを活かし、中心市街地の再生を図るまちづくりが、2015年から進められています。地区内に主要回遊動線(QURUWA)を設定(右図参照)し、この動線上に位置する公共空間を使ってエリア全体の価値向上を目指しています。今年度は公民連携事業の有効性や実現可能性の検証のほか、まちづくりに対する市民や事業者の意識高揚・啓発を促す「社会実験」等を行いました。
(⇒Litaracy90号参照)



●社会実験「MeguruQuruwa」10/28(土)

「あなたは、まちとどう過ごす？」をキャッチフレーズに対象エリア「乙川河川敷～中央緑道～籠田公園～連尺通り～りぶら」で実施された社会実験。一過性の非日常のイベントではなく、未来の日常をつくるという目的を掲げ、普段あまり活用されていない公共空間を舞台に、エリア毎に検証項目とテーマを設定。民間の担い手それぞれの「やってみたい」という思いの実行とその活動を継続させるための可能性を検証しました。

●公共空間活用の具体的提示

「アウトドアリビングな風景をつくろう！」

11/19(日) ほか 全6回

「こうあってほしい」未来のいち日を実現してみるチャレンジ。社会実験(「MeguruQuruwa」10/28)を1日だけのものにとどめず、公園や川、駐車場、道路といった公共空間で「やってみたい」「楽しみたい」を実現する実験を継続して実施しました。

■実施プログラム(全6回)：

- 「#1 本とお昼寝編@りぶら東側ウッドデッキ&プロムナード」(11/19)
- 「#2 まちで集めるお昼ごはん編@シビコ西広場」(12/23)
- 「#3 まちで集めるランチ編@籠田公園」(2/17)
- 「#4 クイズラリー編@りぶら東側ウッドデッキ&プロムナード」(2/24)
- 「#5 ヨガとお茶会編@りぶら北側芝生広場」(3/2)
- 「#6 芝生で読み聞かせ編@りぶら北側芝生広場」(3/3)

← 写真上(「#2 まちで集めるお昼ごはん編」)、写真下(「#1 本とお昼寝編」)



北部地域交流センター・なごみん



「結の精神」が息づく岡崎市北部地域で、利用者を支え、利用者に支えられるセンター運営をしています。

2017年度の事業(抜粋)

●なごみんフェスタ

なごみん利用団体のステージ発表や作品展示、体験コーナーのほか、手作り雑貨や食品の販売を行いました。イベントを通じて、約900名の市民と市民活動団体が交流しました。



●なごみんカレッジ 手話講座

岡崎聾学校中高等部のみなさんを講師に招き、手話を使った挨拶や自己紹介、日常生活に必要な手話などの体験会を実施しました(年2回)。



●地域活動サミットin 北部

北部地域で活動する団体の活動報告と意見交換会を開催。各団体が活動内容や運営のコツを共有できたほか、団体の協働のきっかけにもなりました。



●なごみん横丁

子どもたちが自ら考え、まちをつくるイベントを開催。子どもたちの自主性や創造性を育むことはもちろん、社会の仕組みを知ることで、まちへの興味を高める機会となりました。



●まち育てスクール

「岩津発展の足跡をたどる」と題し、岩津の由来となった船着場(津)があったとされる天神橋付近をはじめ、若一神社、円福寺などの歴史ある神社仏閣を参加者とともにたどりました。

●なごみん防災講座

防災に関する講話に加え、HUG(避難所運営ゲーム)を実施し、いざという時にどのような問題が起こりうるかイメージをしながら、防災の知識を学びました。



南部地域交流センター・よりなん



顔の見える関係づくりを基軸に、地域防災力強化や健康寿命の増進など地域課題解決に取り組んでいます。

2017年度の事業(抜粋)

●よりなん感謝祭

参加団体とともに企画および運営を行い、ステージ発表や作品展示、物販販売を通じて市民と公益活動団体がふれあう機会や日頃の成果発表の場を創出しました。



●生きがいづくり促進事業

公益活動団体に講師を依頼し、高齢者向けの講座を開催。対象者には生きがいづくりの場、団体には活動の場を提供。地域の高齢化問題の意見交換をする交流会も行いました。



●上地学区親子夏祭りへの参加

ボランティアとともに、地域行事で販売する手づくりの風車を作製し、上地学区親子夏まつりにて出店しました。出店を通じて、地域とのつながりをより深める機会となりました。



●夏休みの昔遊び体験フェスタ

昔の遊びを通じて、多世代交流を目的としたイベントを開催。地域とのつながりを深める機会や世代を超えた交流の大切さを実感できる機会を創出しました。



●まち育てスクール

「岡崎学区の歴史めぐり」と題し、三河一向一揆の拠点となった勝鬃寺、日本の自動車製造の先駆者である橋本増治郎の生家などを訪れました。



●防災講習会

防災関連団体と共に、地域リーダーが防災について自主的に学ぶことのできる機会を創出し、課題の掘り起こしや地域住民への啓発意識を高めるきっかけづくりを行いました。

西部地域交流センター・やはぎかん



世代間交流、団体間交流を通じて地域の文化伝承、課題解決、担い手育成を目指しました。

2017年度の事業(抜粋)



●親子創造体験イベント「子どもの街」

テーマを「宇宙」として遊びプログラムを企画。遊びを通して子どもに関わる機会を持つことで、団体間交流や世代間交流の促進を図りました。



●10周年春まつり

市民活動団体や地縁団体の方々と企画した周年イベント。来場者は昨年を上回る約1400名。ステージ発表、体験、展示などを通じて団体と来場者との交流が見られました。



●花のとう協賛イベント

矢作のまちの伝統行事「花のとう」の開催に合わせ、誓願寺や矢作神社などを巡る、まち歩きを実施しました。



●やはぎ大楽

各分野の専門知識を持つ団体に講師を依頼し、ものづくり講座、寄せ植え講座、広報講座(伝わるチラシゼミ)を開催しました。



●まち育てスクール

「長瀬の里なぞときウォーク」と題し、矢作北学区総代会と連携し、矢作北学区の歴史をなぞとき形式で巡るまち歩きを実施しました。



●やはぎかん防災講座

「家族を守るためのボウサイ」と題し、防災意識の啓発と自助力の向上を目的に市民団体(計5団体)と協働して、子育て世代に役立つ防災講座を開催しました。

東部地域交流センター・むらさきかん



地域にある多様な主体と連携して東部地域を盛り上げていけるよう、交流や情報交換を行っています。

2017年度の事業(抜粋)



●むらさき麦まつり

藤川まちづくり協議会と連携し、歴史や文化を感じられる「藤川宿スタンプラリー」や名産品「むらさき麦」を使用したお菓子グランプリを開催しました。



●むらさきかんフェスタ

舞台発表や親子工作などの体験ブース、手作りの販売、展示などを通じ、市民活動団体と市民との交流の場を提供しました。



●東部の活躍人！交流会

東部地域(主に額田地区)で活躍する市民活動団体・地域団体の代表者らが集まり、互いの情報交換と親睦を図る交流会を年2回開催しました。



●まち育てスクール

岡さんぽ、岡崎ウォーキング協会、藤川まちづくり協議会と連携し、東部地域の魅力を発見するために、藤川学区(牛乗山、藤川宿など)のまち歩きを実施しました。



●むらさき麦食育講座

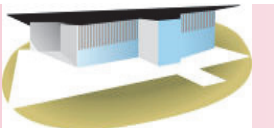
藤川まちづくり協議会、愛知学泉短期大学と連携し、子どもを対象とした食育教室(むらさき麦を使用したクッキー作りほか)を開催しました。



●東部の“いいところ”行っとこ！展

岡崎東部地域の魅力ある史跡や活動を紹介展示。東部でやってみたいこと、出かけてみたいところに投票してもらうなど、来館者とともに東部の“いいところ”を探りました。

地域交流センター六ツ美分館・悠紀の里



「六ツ美悠紀斎田保存会」と協働し、「悠紀斎田」の伝承から、さらに新しい地域づくりへと広がっていきます。

2017年度の事業(抜粋)



●ゆき収穫祭

悠紀斎田で育ったお米を収穫し、昔の道具を使用する脱穀などの収穫体験をメインに、バルーンアートやクイズ、体操などの体験企画も開催しました。



●3周年ゆきフェスタ

公益活動をしている団体・個人の成果発表の場として、マジックなどのパフォーマンスの披露、作品の展示のほか、手づくり雑貨、食品などの販売を行いました。



●お田植えみんなでアート

六ツ美悠紀斎田お田植えまつりに協賛し、地縁団体、公益活動団体と参加型アートを実施。横約8mのガラス壁に、総勢55名で団体コラボによるアート制作をしました。



●まち育てスクール

「むつみ語り合いカフェ」と題し、地域の魅力づくりや課題解決に取り組む人材育成を目的に、自分の住むまち「六ツ美」について語り合うイベントを開催。当日は、地域総代や中学生など、総勢55名に参加いただきました。



●みんなのむつみ展

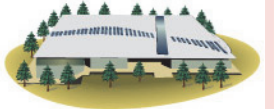
六ツ美を題材にした写真や絵画などを公募し、その作品の展示会を開催しました。来館者の投票により、「むつみ賞」と「みんな賞」が選ばれました。



●おやこクリスマス

複数の子育て支援団体とともに実行委員会を作って企画・運営したイベント。パパにもできるベビーマッサージ、園児にもできる手作り体験などが好評でした。

りぶら市民活動センター



公益活動の担い手育成、交流・マッチング、自立運営の支援を形にすることができた一年でした。

2017年度の事業(抜粋)



●まちびとバンク

公益活動促進のために、ボランティアをしたい人と探している団体について912人のマッチングを行いました。(6センター全体では3459人)



●助成金に頼らない団体運営セミナー

コミュニティ・ユースバンクmomo理事の木村真樹氏を講師に迎え、NPO法人・任意団体向けに、団体を成長させる資金調達講座を開催しました。



●もののものバンク

市民の方より不用品を提供いただき、必要としている市民活動団体に差し上げるシステムを運用。37件のマッチングが成立し、団体が抱える「モノ」不足を解消することに努めました。



●まち育てスクール

「りぶらぶらり散歩」と題し、まち歩きを通じて「公益活動を行う市民の発掘・育成を目指す」という目的のもと、りぶらの館内と周辺を巡るツアー(全4コース)を開催しました。



●岡崎NPOコラボひろば(愛称：おかぶら)

岡崎市で公益活動をしている個人、団体、社会貢献に興味のある企業を対象とした情報交換会を年10回開催しました。(新規事業)



●公益活動支援

ボランティアや助成金の情報提供など、公益活動に関する様々な相談に対応。また、岡崎市の市民活動団体登録の申請相談・受付対応などを行いました。